第6回 おかやま環境教育ミーティング 報告書

平成30年度 協働による環境学習推進事業（岡山県）
おかやま環境教育ミーティング実行委員会

第6回 おかやま環境教育ミーティング

- 日　時：平成 30 年 8 月 9 日（木）　10:00 ～ 17:15
- 会　場：岡山コンベンションセンター　1F イベントホール
- ブース出展：44 団体
- 午後からの進行役：志賀　誠治　氏（人間科学研究所　所長）
- 参加者：188 名（一般参加者 162 名、実行委員・スタッフ 26 名）
  参加者の年代、所属、きっかけは以下のグラフの通りであった。（図 1 ～図 3）

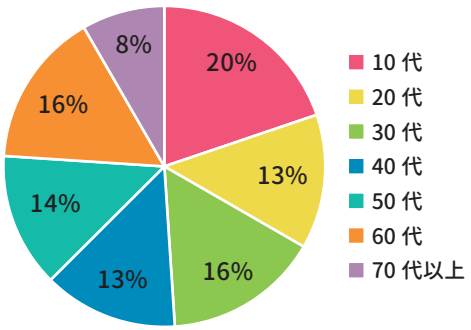


図 1　参加者の年代

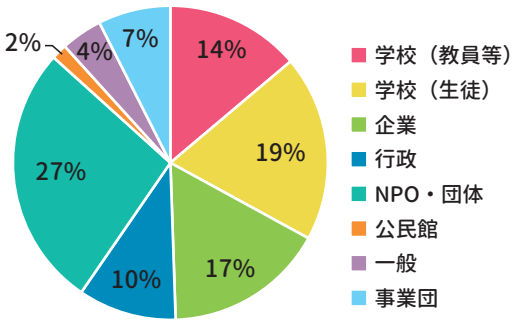


図 2　参加者の所属 ※複数選択あり

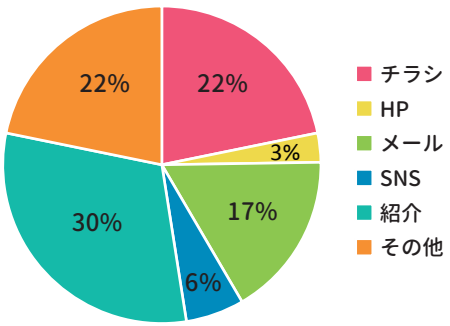


図 3　参加したきっかけ ※複数選択あり

目 次

＜内容＞

スケジュール

9：30　受付開始

10：00　開会挨拶　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

おかやま環境教育ミーティング実行委員会　委員長　竹島　潤

10：05　オリエンテーション　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

かんきょうひろば事務局

10：15　おかやまエコスクール表彰式　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

・岡山市立大宮小学校　・真庭市立天津小学校　・真庭市立木山小学校

・真庭市立月田小学校　・真庭市立北房小学校　・真庭市立美甘小学校

・真庭市立米来小学校　・真庭市立余野小学校　・鏡野町立大野小学校

10：30　ブース展示　＜活動紹介・自由交流（44団体）＞　・・・・・・・・・・・・・・4

12：15　昼休み

13：15　午後のオリエンテーション　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

人間科学研究所　所長　志賀　誠治　氏

13：45　分科会　＜分科会ごとに分かれて話し合い（11分科会）＞　・・・・・・・・・・6

15：45　移動・休憩

16：00　全体会　＜ふりかえり、わかちあい＞　・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

17：00　閉会挨拶　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

岡山県環境文化部　新エネルギー・温暖化対策室　室長　小寺　恵子

＜アンケート記入＞

＜アンケート結果＞　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

＜スケジュール＆実施プロセス＞　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

内容

10:00　開会挨拶　　おかやま環境教育ミーティング実行委員会　委員長　竹島　潤

・開会に先立ち、長崎原爆投下で亡くなった方、西日本豪雨災害で亡くなった方へ黙とう。
・「戦争は最大の環境破壊の一つである」と言われている。また、この夏は、「豪雨」・「台風の直撃」・「命に関わる暑さ」という言葉をよく聞いた。会場の皆様にも地球規模に進む気候変動、環境問題が切実に感じられたことと思う。
・本日は、会場におよそ 200 名近い方の申込みと参加をいただいたが、当日になって災害の関係で来られなくなった生徒や大人の方もいる。その方々の想いも受けて、今日 1 日を充実したものにしていただきたい。
・今日は、後方に 40 以上のブースが準備されている。分科会も 11 準備されている。最後には、ふりかえりの全体会もあるので、充実した時間を過ごしていただき、この環境教育ミーティングの趣旨である「持続可能な社会を創るためにいろいろな個人や団体が手を取り合って、行動を起こすことで環境学習を推進する」という目的が達成されることを切に願っている。

10:05　オリエンテーション　　かんきょうひろばの説明　事務局

・この環境教育ミーティングは、かんきょうひろば（岡山県環境学習協働推進広場）が企画している。岡山県内において、環境教育を協働によって推進していこう！盛り上げていこう！というもの。
・かんきょうひろばは、登録制となっており、地域の団体、社団法人、財団法人、行政、環境学習に力を入れている学校などの登録があり、最近では企業の登録も増えている。様々なセクターの方が、集い、知恵を出し合い、足りないところは助け合いながら、協働して環境学習を盛り上げているというのが、かんきょうひろばである。
・活動内容で一番大きなものは、「環境学習出前講座」。これは、学校や公民館、市民団体などからご依頼いただいて、そこへ登録している指導者や団体を派遣し、環境学習を提供しているもの。ニーズが高く、今では、依頼件数が年間 300 件を超えることが当たり前になってきている。
・続いて「指導者養成講座」。これは、先ほどの「環境学習出前講座」の依頼数が毎年増えており、今後も増加が見込まれるため、県内で「環境学習出前講座」ができる指導者を育成していこうというもの。
・そして「交流、情報共有」。この環境教育ミーティングもそうだが、一緒にやっていくみなさんが交流して情報交換できる場、まなびあいができる場の提供を行っている。
・「環境」は、持続不可能になっている今の社会を持続可能な社会にするために重要な基盤となるテーマ。
かんきょうひろばでは、環境学習をすることで地球にやさしい生活ができる人をひとりでも多く育てたいと考えている。
・今日お越しいただいている方で、かんきょうひろばに登録されていない方は、ぜひ登録していただきたい。
・この環境教育ミーティングは、つながる場、学び合い高め合う場、協働が生まれる場を目指している。今日はたくさんの方にご参加いただいている。しかも幅広い年代で、活動されているジャンルも広くなっている。こういった場は、全国探しても珍しいので、ぜひこの機会を活用して活発な交流が行われればよいと思っている。心をオープンにして積極的な交流をお願いしたい。

▲受付の様子

▲司会　江國委員

10:15　おかやまエコスクール表彰式

かんきょうひろば運営委員会　委員長　湯場　俊一

・今年のおかやまエコスクール対象校は以下の 9 校であった。（当日出席校 3 校は緑色表示）

岡山市立大宮小学校、真庭市立天津小学校、真庭市立木山小学校、真庭市立月田小学校、真庭市立北房小学校、真庭市立美甘小学校、真庭市立米来小学校、真庭市立余野小学校、鏡野町立大野小学校

・表彰校を代表して、岡山市立大宮小学校の足羽校長よりお言葉をいただいた。
・本校は、岡山市の東の端に位置する学校で全校児童は 16 名。学区内には、ホタル等が生息する豊かな自然に囲まれた地域。
・その豊かな自然の触れ合いの中で子供たちが、地域のことは地域の方々から教わり、科学的な知識を学ぶ際は、環境学習出前講座を活用させていただきながら、環境学習を進めているところです。
・この賞を励みにこれからも豊かな自然と共生を目指した環境学習を子供たちともども取組んでいきたいと考えています。本日は、ありがとうございました。

10:30　ブース展示（44 団体が出展）

・自由交流の場としてブース展示を行った。各出展者の活動紹介や実際に体験できるブースもあり、参加者同士がつながる場として大いに盛り上がった。

ブース出展団体一覧（44団体）

1	岡山市ESD推進課・ 岡山ESD推進協議会
2	岡山市環境学習センター 「めだかの学校」
3	環境省　中国環境 パートナーシップオフィス
4	岡山県新エネルギー・ 温暖化対策室
5	岡山県 森林インストラクター会
6	千年の森つくりグループ、 旭日こどもエコクラブ（美咲町）
7	せとうち花倶楽部
8	JICA中国
9	「希望の牧場・ふくしま」 ボランティア岡山隊
10	NPO法人ICOI （国際協力研究所・岡山）
11	岡山県立津山工業高等学校 工業化学科
12	岡山県立水島工業高等学校 （化学部）
13	岡山市立一宮公民館、 吉備の国エコライフ協議会、 NPO法人岡山環境カウンセラー協会
14	フードバンクアリス・ 岡山市エコ技術研究会
15	アクティブ・ホープ岡山
16	おかやまエコマインド ネットワーク
17	東京海上日動 火災保険株式会社　岡山支店
18	あさくち（さとしょう） de ecoる課！！
19	倉敷イオン　チアーズクラブ マスカット隊
20	岡山市立旭東中学校
21	トンボの森づくりwith真庭高校 （岡山県立真庭高等学校 落合校地）
22	岡山県シェアリング ネイチャー協会
23	プロジェクト・ワイルド プラス岡山
24	わかもの環境リーダー研修 @犬島
25	藤クリーン株式会社 （コンケングループ）
26	岡山市/ESD・市民協働推進 センター
27	株式会社 サンキョウ-エンビックス
28	操山公園里山センター （公益財団法人岡山市公園協会）
29	認定NPO法人　おかやま エネルギーの未来を考える会
30	岡山県立玉野高等学校
31	岡山県立倉敷天城中学校 3年　藤田紗矢
32	岡山理科大学附属高等学校 科学部
33	おひさまエナジー ステーション株式会社
34	NPO法人 エコネットワーク津山
35	SDGsブース
36	環境学習センター 「アスエコ」
37	公益財団法人 水島地域環境再生財団
38	かいわれの会
39	旭川源流大学実行委員会
40	エコロジー東備
41	岡山市立西大寺公民館
42	株式会社LIXIL
43	イオンリテール株式会社 トップバリュ株式会社
44	明和製紙原料株式会社

12:15　昼休み

13:15　午後のオリエンテーション

進行役：人間科学研究所　所長　志賀　誠治　氏

・11個の分科会に分かれ分科会ごとに意見交換を行い、環境教育、ESD、SDGsの学びを深める時間になっている。
・話をするプロセスや交流を深めることも大切にした時間にしてほしい。
・今日の参加者は岡山の環境教育をけん引していくコアメンバー。どんな人がどんな思いを語っているのか、どんなことを大切にして環境に取組んでいるのかを知り、繋がっていくことが、これから先の県内における環境教育推進の財産になる。
・分科会に臨む上で次のような心構えを大切にしてほしい。
「Listen（聞く・聴く）」「Open（心を開く）」
「Voice（声に出す）」「Enjoy（楽しむ・遊び心）」
・分科会のあとの全体会では自身が参加した分科会を紹介していただくので、分科会で感じたキーワードを４つ考えておくこと。

13:45　分科会

・それぞれの分科会は、おかやま環境教育ミーティング実行委員とかんきょうひろば運営委員が講師またはファシリテーターとして構成をされている。一方的に伝える講義形式のようにならないように参加者同士による意見交換を大切にした。
・交流型の分科会もあれば、ワークショップやゲームを取入れた分科会もあり、それぞれで活発な交流が行われ、楽しみながら学び合うことができた。
・参加者は他者の意見を聞き、自分の意見を発することで、自身の考えを整理して共有する時間となった。

1　第４の革命 ～エネルギーをみんなに、そしてクリーンに～

参加者数 15名

講師：延藤 裕之（認定NPO法人おかやまエネルギーの未来を考える会）/ ファシリテーター：竹島 潤（NPO法人ICOI、岡山大学附属中学校）

【概要】
・福島県双葉郡浪江町における現地活動レポート
・再生可能エネルギーに関する基礎講座

【実施内容】
⓪ はじめに
10分… ① 自己紹介「4 つの窓」
（氏名、所属（活動）、参加理由、
エネルギーと言えば？（関心事は？））
30分… ② ふくしま現地活動レポ（竹島）
60分… ③ 1. 再生可能エネルギーとは？
2. 第 4 の革命とは？
3. 世界では何が起きている？
4. 私たちに何ができる？
（延藤）
15分… ④ グループ別ふり返りトーク
5分… ⑤ まとめ

【記録担当者】
竹島　潤

【まとめ】
概要を知りたいという理由での参加者にとっては、ふくしまの現実と再生可能エネルギーについて、ほどよく理解できたようだった。若手が現地活動や再エネ普及に向けて、実際に「行動」していることも共感を得られた。

2　森に学び、森から考える未来の暮らし

参加者数 14名

講師：「真庭トンボの森づくり推進協議会」with 真庭高等学校落合校地 / ファシリテーター：小桐 登（(一社)おかやまエコサポーターズ）

【概要】
森の保全活動を通して、広がる人の輪、知恵の輪、未来の輪として真庭トンボの森の活動により広がった森の価値を整備の意義や森の価値を伝えるとともに活動から学んだ高校生の活動発表と森の恵みを使った楽しいワークショップを実施した。

【実施内容】

① ガイダンス
② アイスブレイク＋自己紹介
（名前、所属、動機、期待する事）
③ フリップを使った説明
・森と私たちの暮らしのつながり
・森の役割　・森からの恵み　・森から離れた生活
・化石燃料の暮らし　・森の荒廃　・真庭市の政策
・トンボの森の整備　・環境学習の場としての機能
・高校生による体験からのワークショップ立案、実施
（生徒 2 名 ×3 が講師）
④ ワークショップ　3グループ同時開始
ひのきペンづくり、和紙漉き、ハンモックづくり
⑤ 感想の共有

【記録担当者】
小桐　登

【まとめ】
教えあい学びあいがあり、和気あいあいの学びの時間でした。

＜参加者の声＞
・工夫を一緒にしながらのハンモックづくりは良かった。
・ヒノキを削ると良い香り･･･いい経験になった。
・和紙づくり体験で小学生の時に体験した事が成長しても思い出に残っている→小学生の出前講座を大切にしたい。
・大人の考えで体験からサポートしてもらえて良かった。（ハンモックひも通し）
・異世代交流は効果があった。

3　環境問題の謎を解く！～中央アジアで何が起こったか？～

参加者数
11名

講師：新川 美佐絵（JICA中国）/ ファシリテーター：江國 友哉（NPO法人ICOI、岡山市立石井中学校）

【概要】
ワークショップの手法を通して、ウズベキスタンのアラル海で何が起こったかについて予想してもらい、その過程でこの問題を身近なものに感じてもらった。
その後、SDGs の視点から、アラル海の問題を「持続不可能なもの」の一例として捉え、自分の身の回りにある「持続不可能なもの」を考えるきっかけとしてもらい、持続可能な社会を目指すための場づくりとした。

【実施内容】
① 自己紹介（アイスブレイク）
② ピクチャーカード（3枚の写真からストーリーを予想）
③ 現地調査（封筒に入ったインタビューシート等から情報収集）
④ 解説（アラル海で何が起こったか）
⑤ SDGs について
⑥ まとめ（身の回りにある “持続不可能なもの” を考える）

【記録担当者】
江國　友哉

【まとめ】
（身の回りにある “持続不可能なもの”）より
・水鳥がやってこない　・文化が消えていく　・海のゴミ問題
・温暖化と水　・経済の格差　など気づきを共有
↓
Think　Globally　Act　Localy
⇒自分の足元で活動をしていくための
きっかけ、モチベーションを高める場になった。

4　『紙はゴミじゃない！』を日本の合言葉に！

参加者数
6名

講師：湯場 俊一（明和製紙原料（株））

【概要】
古紙リサイクルの現状について、明和製紙原料（株）の取組みなどを事例として学び、その意義について考えるとともに、その課題をディスカッションによって洗い出し、今後古紙リサイクルを日本全国に浸透させるためには何が必要なのかについて話し合った。

【実施内容】
・参加者自己紹介（この分科会に参加した理由など）
・紙の循環について講師より解説
・古紙リサイクルの意義について
（50kg の古紙回収で成木 1 本が助かる！）
・古紙リサイクルをめぐる世界の現状について
（古紙輸出先（主に中国や東南アジア）で問題となっている環境問題（排水問題・異物混入等）について）
・意見交換
（リサイクル率の低い職場での古紙回収率を上げるためにはどんな取組みが必要か？）

【記録担当者】
角　麻梨子

【まとめ】
意見交換の結論
① リサイクルできないものは作らないなど、製作サイドの協力も今後は不可欠。⇒SDGs「つくる責任、つかう責任」の推進と連動させる。
② 町内会単位での廃品回収が廃れてきていることに危機感を感じる。⇒マンション単位での取組みなど、現代社会にマッチした回収体制の構築が急務。
③ 知らないと取組まない。まずは一人一人の意識付け（特に事業者の上層部の意識改革）が重要。⇒環境教育の大切さ。

5 『瀬戸大橋』を環境と住民の取組みから振り返る

参加者数 8名

講師：磯部 作（(公財)みずしま財団、放送大学客員）/ ファシリテーター：中谷 八郎（環境学習センター「アスエコ」）

【概要】

今年、開通30年を迎えた瀬戸大橋について、建設当時問題となった環境問題について、科学的な調査、研究を行い、そのデータをもとに住民と共に訴え続けた結果、ルートや建設工法が変更されたところもありました。当時の活動をもとに、地域の環境保全に果たした住民等の役割と私たちが今後どのように取組んでいくべきなのかを考えました。

【実施内容】

5分… ① オリエンテーション（今日のテーマとSDGs）
50分… ② 環境問題と住民の取組みについて
20分… ③ 自己紹介と
「あなたが持っている瀬戸大橋のイメージ」
50分… ④ ディスカッション
気になる点、疑問点などを共有
5分… ⑤ 今日の話の整理
全体会で使用するフリップボードへの記入

【記録担当者】
中谷　八郎

【まとめ】

瀬戸大橋が出来てから生まれた方、瀬戸大橋が出来た時には仕事をしていた方など、多様な世代の方と話をすることができた。

＜参加者の皆さんとこんな話をしました＞
☆瀬戸大橋について、環境という切り口で見ることで、新たな発見があった。
☆当時は、「夢の懸け橋」と言われていたが、いろいろな意味で本当に夢の懸け橋であったのか？
☆フィッシャーマンズワーフが無くなったり、島に住む住民が減少している等、経済的にも地域の住民にとっても30年で大きく環境が変化している。
☆現在は、アセスメントなど法律が整備されているが、そういった法整備が無かった当時は、どのような流れで建設が進んでいったのか。また住民は、どのような関わり方を行っていたのか？
☆建設当時、地域の人が環境を守るため地域を守るためにこういった運動をしている事が知れてよかった。

6 VAAM!スズメバチから考える環境問題と外来種対策が今、アツい！

参加者数 10名

講師：新田 涼平（(一社)梁クラス）/ ファシリテーター：神垣 匠（環境学習センター「アスエコ」）

【概要】

前半は、一般的に身近に住んでいるが危険な昆虫として扱われているスズメバチの生態から危険性や対処方法を学んだ。講師が持参した、標本やハチの巣に触れながらハチの特性や巣の性質について話を聞いた。スズメバチは適切な対処をすれば、コワイ昆虫ではなく、貴重な食料資源になることを学んだ。
後半は、温暖化の影響で、気温が上昇する中、いままで生存できなかった外来種のスズメバチ（ツメアカスズメバチ）の話題から、外来種問題について学び考えた。さらに、温暖化によって様々な昆虫に影響があることについての紹介があった後、人類の生活が昆虫に依存していることを学んだ。以上の内容をワークを取り入れて、参加者同士や講師と意見交換しながら実施した。

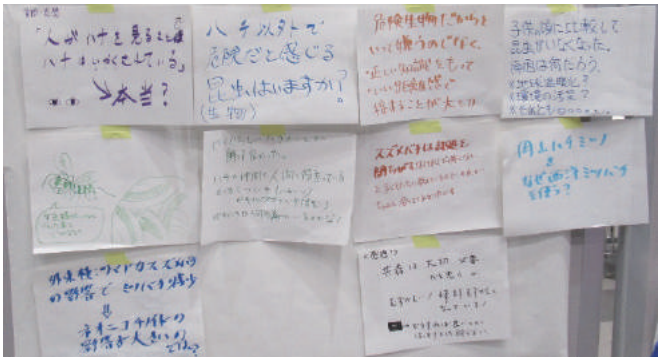
【実施内容】 ワーク概要：個人でシンキング3分、班で話し合い5分、班の代表発表2分

① 参加者自己紹介・アイスブレイク「となりのとなりは？」
② スズメバチとは（スライドで解説）
③ ワーク1「知っているスズメバチを挙げてみよう」
④ スズメバチの種類特徴、生態、被害（スライドで解説）
⑤ ワーク2「スズメバチはなぜ襲ってくるのかな？」
⑥ スズメバチに出会った時の対処、共存（スライドで解説）
⑦ ワーク3「知っている『外来種』を挙げてみよう」
⑧「外来種問題と地球温暖化」（スライドで解説）
⑨ 質疑応答、感想共有
⑩ 講師から参加者へ一言

【記録担当者】
神垣　匠

【まとめ】

参加者と講師で、活発に意見交換が出来ていた。雰囲気も和気あいあいとしていたので、楽しかった。



7 「すてる責任」を考える ～産業廃棄物リサイクルの現場から～

参加者数 12名

講師：藤クリーン(株)(コンケングループ)スタッフ / 原 明子（ESDコーディネーター）

【概要】

建築系産業廃棄物の中間処理を行い、約90％をリサイクルしている藤クリーン株式会社の方々が小学校４年生に対して、出前授業を行った結果、子どもたちは現状、未来への危機感を持ち、自分たちの行動を考えたいという感想を持った。このことから、どういう学びの場があるとどういう行動につながっていくか、をSDGsの12番『つくる責任、つかう責任』の観点を踏まえつつグループでディスカッションし、共有した。

【実施内容】

① オリエンテーション
② 参加者の自己紹介
③ コンケングループの紹介ビデオ鑑賞
④ 藤クリーンの説明（出前授業内容含む）
⑤ グループ分け（4人 ×3）
⑥ 話し合い
　課題 1. 産廃以外のこともつながっている
　　ことを理解できる学びへ
　課題 2. どのような行動につなげられるか
⑦ 話し合った内容の共有

【まとめ】

参加者からは、「小学生での学びは今までのような家庭ゴミや教室ゴミという生活レベルにとどめず、『なぜゴミを減らす必要があるのか』という目的を考えるまでが重要だ」という声があり、これに関して多くの同意があった。ディスカッションでは、今後どういう学び、考えが必要かについて各グループ内で意見が飛び交っていた。「理想と現実は違うが、良い話し合いになった」という感想もあり、現実を変えていくことは簡単ではないが、学びを充実させることで一般的な考え方や行動が変わっていくことは十分ありうると思える会になった。

【記録担当者】
埋見　奈津希

8 「にじいろシャワー」な未来を考えよう！

参加者数 12名

講師：白井 信雄（山陽学園大学）/ ファシリテーター：谷口 瑞穂（環境学習センター「アスエコ」）

【概要】

持続可能な社会の実現を目指す取組みが期待されているが、「どのような持続可能な社会を実現したいのか」という目標について共有していく必要がある。そこで、技術革新に頼り、問題を解決していくことや昔の生活にもどる未来ではない、自分たちにとっての新しい第３の未来（「にじいろシャワー」な未来）について話し合った。そして、その「にじいろシャワー」な未来を実現するために環境教育は何をすべきかについてもグループトークを行い、全体で共有した。

【実施内容】

① オリエンテーション（講師の紹介、SDGs、趣旨等）
② グループトーク
　3グループに分かれ、そもそも
　「にじいろシャワー」とはなにかを自由に話し合う
③ 発表・グルーピング
　付箋紙にキーワードを書き、一人ずつ発表
④ グループトーク
　これらの「にじいろシャワー」を実現するために
　必要な環境教育とはなにかを自由に話し合う
⑤ 発表・グルーピング・まとめ
　付箋紙にキーワードを書き、グループごとに発表

【まとめ】

- 今回のにじいろシャワーな未来では、コンパクトシティや地産地消といった構造転換の具体像が出ていることを想定したが、それよりも、自由な働き方や社会への参加など、人がどう生きるかという観点でのアイディアが中心となった。
- 出てきたアイディアは、「お金に囚われるのではなく、個性に応じた自分の幸せを選べる社会」「皆に役割があり、求め・求められる・頼られる社会」「人と人のつながりが普通にあり、教え・教え合う社会」等に集約できる。自分の役割や生きる意味、働く意義についても考えていけるような未来を私たちは望んでいることがわかった。
- そのための環境教育は従来通りの「知る→体験する→学ぶ」だけでなく、価値観を押し付けずに、若者の力を引き出す教育や自発性を育てていく必要があり、教育者が応援者となる必要があることがわかった。

【記録担当者】
谷口　瑞穂

9 食品ロスはなぜ発生するのか ～リアルな現場から考えてみよう～

参加者数 14名

講師：太田 光一（(株)ハローズ）/ ファシリテーター：赤井 藤子（おかやまエコマインドネットワーク）

【概要】
おかやまエコマインドネットワークが作製した食品ロス削減のための啓発DVDを視聴して参加者の感想等を共有する。共有後、ゲストの（株）ハローズ太田光一さんの情報提供でリアルな現場を知っていただく。その後、参加者で出来ること、広げていきたいことを具体的に考えた。

【実施内容】
① オリエンテーション
② 参加者の自己紹介
③ DVD「食品ロスを知っていますか」視聴
④ 視聴の感想を共有
⑤ ハローズ（ゲスト）「太田光一氏」の話と質疑応答
⑥ それぞれの立場で出来ることをテーマに交流
⑦ SDGsとのつながりについて

【記録担当者】
播本　博子

【まとめ】
DVD「食品ロスを知っていますか」の内容で初めて知った事
・食品ロスの量、賞味期限などがあった。
・スーパーでの廃棄を少なくするための自助努力をしている
　⇒子ども食堂や就労支援へ譲渡している。
・行政では食品ロスを当たり前のレベルに思えるように広げていきたい。
・公民館では食品ロスをキーワードに自分の事としてとらえる、または、他者へ思いをはせる事を役割として活用してもらう場を提供したい。
・個人では一人一人が食に対するライフスタイルをかえたい。
・スーパーの人はものを捨てることに罪悪感を感じている。それを助ける意味で廃棄される食べ物のマッチングで量を減らしていきたい。

10 チリメンモンスターから学ぼう！里海・里山＆SDGs

参加者数 17名

講師：藤田 学（岡山県立玉野高等学校）/ ファシリテーター：山田 哲弘（岡山県自然保護センター）

【概要】
私達の身近な食べ物であるチリメンジャコと混ざっている生きものを教材にした「チリメンモンスター探し」を体験し、どんな生き物がいるか、それは生息場所の違いにより種類はどう違うのか、またその生き物を取り巻く海の環境・問題・生態系はどうなっているか等みんなで楽しく話し合った。

【実施内容】
① オリエンテーション（講師の先生の紹介他）
② テーブルごとのグループに分かれ自己紹介
③「チリメンモンスターをさがそう！」体験（45分）
　（牛窓産と和歌山産のチリメンモンスターを使用）
④ チリメンモンスターを使ってマイ標本「○○の里海つくり」を作製（グループでシェアしあう）
⑤「チリメンモンスターから環境問題を考えよう！」をテーマにグループ討議をする。
　講座として立ち上げる場合のアイデアも出し合う。

【記録担当者】
矢野　公美子

【まとめ】
年代別でそれぞれに思いや考え方は違うが、今回このような場を作っていただいた事により、色んな知識や学びが深まったように思われる。今後はより中身を深めていきたいと思っている。

＜参加者の声＞
・チリメンモンスター探しは初体験だったが、すごく楽しめた。産地別に比べてみるとチリメンモンスターの種類が違い面白かった。また別の地域のものでも試してみたい。
・レアものが出てくるとより盛り上がる。
・チリメンモンスターはSDGsのなかでは14番の『海の豊かさを守ろう』にあてはまる。今問題になっているマイクロプラスチック、ナノプラスチックの問題について知識を深めたり、食物連鎖、乱獲の問題にも目をむけていく必要があるのではないか。

11 ドイツ生まれの気候変動教育プログラム「ミステリー」体験会

参加者数 16名

講師：角田 健二朗（環境学習センター「アスエコ」）

【概要】
「ミステリー」はドイツのバーデン＝ヴュルテンベルグ州の学校現場で実際に導入されている気候変動教育手法の一つです。この分科会ではその「ミステリー」を体験して、どんなことを学ぶことができるか、どんなところがポイントなのか、どのような場面で活かせるか、などを話し合いました。

【実施内容】
① 講師自己紹介
② 出前講座の仕組み・実績・説明・特徴
③ グー・チョキ・パー・アンケート
④ 4つにグループ分け（気候変動認知度）
　→グループ内自己紹介
⑤「ミステリー」概要説明
⑥「ミステリー」の体験（45分）
⑦ 他グループへ説明＋他グループをまわる
⑧ 自グループで振り返り
⑨ 解答例配布
⑩ 感想、共有
⑪ グループワーク「ミステリー」とはどんなものか？

【記録担当者】
中河　俊昭

【まとめ】
＜ミステリーを体験した参加者の感想＞
・気候変動は環境だけでなく様々な問題が複雑に絡み合っていることがわかった。
・環境学習の導入として面白い。
・家庭の中の問題として取り上げたことで、身近なことに感じやすい。
・少し難しかったが、だんだんできてきた。またやってみたい。
・子ども向けを作ろう！⇒イラスト写真多めとか
・難しかったが、いっしょにチームで考えられて楽しかった。
・日本版知りたい。

15:45　移動・休憩

16:00　全体会

進行役：人間科学研究所　所長　志賀　誠治　氏

[内容]
・異なる分科会同士で4人1組のグループをつくった。
・自己紹介と自分が参加した分科会の概要を4つのキーワードとともにグループ内で紹介しあった（2分/人）。
・その後、1日の「ふりかえり」と「わかちあい」として以下の設問に対してキーワードを書き、グループ内で意見交換を行い、1日の学びや気づき、想いについて一人一人整理し共有した。共有したことを自ら発表したい方やグループ内での他薦により、書いた内容や想いを会場全体に向けて発表、共有した。学生などの若い世代の発表が多くあったことから、会場全体が活性化し、多くの意見が交わされた。
・最後にSDGs17分野の中で、自身のライフスタイルの中で優先度が高い分野を1つ選び、日常生活の中でどんな取組みをしていきたいか（＝「私のSDGs宣言」）を考え、グループ内で発表、共有した。

Q1. 今日一番の学びは何でしたか？

・身の回りの環境を守ると世界の環境も守れる。
・いろんな世代の人と話すのが大事だと思った。多くの方と話すことで、知らなかったことも知ることができ、勉強になった。
・参加者の若い方が、ご自分で電気を作っていた。他人にできることは自分もできることと思うので、環境教育も大事だが、私は自分にできることを他人に見ていただきたいと思った。
・知らなかったことを知ったこと。
・節約を頑張りたい。

Q2. 改めて、環境教育で大事にしたいと思ったことは？

・環境教育ミーティングで自分よりも上の世代の方々と交流ができた。自分たちの世代だけでは思いつかない知識などを取り入れて新しいアイデアが出せると思った。
・もっと勉強して、自分ができることをしようと思った。今日、教わったことだけでなく、自分でも調べていきたいと思った。
・共感して、一緒に考えて、行動すること。

17:00　閉会挨拶

岡山県環境文化部　新エネルギー・温暖化対策室
室長 小寺 恵子

・各ブース、分科会でそれぞれ実り多い体験をされたと思う。
ここで得たつながりや見識を活かし、今後の各々の活動に役立てていただきたい。

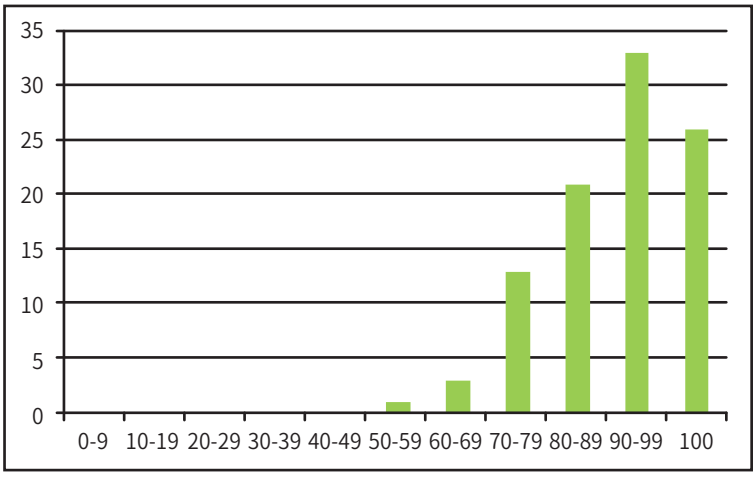
アンケート結果（回収 98 人 / 188 人）

Q．本ミーティングに参加された目的や期待することを教えてください。

【コメント（一部抜粋）】
・環境学習を行うための教材探しや、人とのつながりを深め、知識を深めよりよい環境学習が行える基盤を作りたい。
・おもしろいことや、人をさがしにきました。素敵な志賀さんの司会に期待。
・環境について活動している仲間と知り合う。
・学校の取組みを、生徒達が自分の言葉で伝えたり、参加者からの質問に答えることによって、
　自分たちの活動に対する理解を深めること。
・私たちの経験を紹介すること、他の方々の経験を知ること。
・新たな気づき、出会い、また、改めて考え直すリセットする時間。
・他団体との協働、関係づくり。
・環境教育が積極的に行われていると伺っていた岡山の状況を参考にしたかった。
・新しい考え方、見方を学んで多くの人々とつながっていける。
・いろいろな方から様々な意見を聞いて、今後の施策に活かしたい。
・ESD の実践を知りたかった。
・同じ方向に向いて活動されている方々と出会いつながり自分が気づいていない事に気づき目を向けられるようにする。
・環境活動について他団体から学ぶこと、自分の団体の活動を PR すること。
・以前も参加したときは、自分の意見を言えなかったので、今回はそれを越えるように期待。
・環境に関する様々な活動をされている企業や学生さんの活動内容を聞くこと。
　⇒そのことを聞いて自分だったら何ができるか考える。
・環境に関する講座を企画・実施しているので日頃の活動の参考にできたらと思い参加しました。

Q．本ミーティングの内容は、あなたの目的や期待を 100 点とした場合、何点でしたか？
また、その理由を 教えてください。

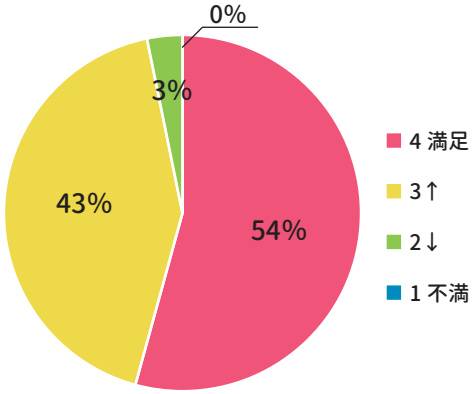
【理由（一部抜粋）】
・活動者とのつながりができました。
・若い方の積極的な参加が見られたこと。
・今後の活動の参考になる意見が聞けた。交流ができた。
・企業、団体の方々の熱心な取組みにとても心動かされた。
・様々な人と繋がり、学びを深めることができた。
・幅広い分野、年代の方と意見を交換することができ大変有意義に感じられました。
・それぞれのブース展示や内容が素晴らしく、勉強になりました。懐かしい教え子にも偶然出会うことができ、環境に関してお互いに興味を持っていることがわかりました。
・良い内容でした。分科会が充実していました。
・県北の参加者がもっと増えれば 100 点です。
・時間が足らないと感じた。もっと様々な方とお話がしたかった。
・いろんな人と話したり、教えてもらったりできて、楽しかったし、勉強になった。
　でも、話が難しいところもあって、中学生には難しいかな。と思った。



点数の頻度分布（回答数 97）

◆参加者の大部分の方から 80 点以上の評価をいただいた。（平均 87 点）

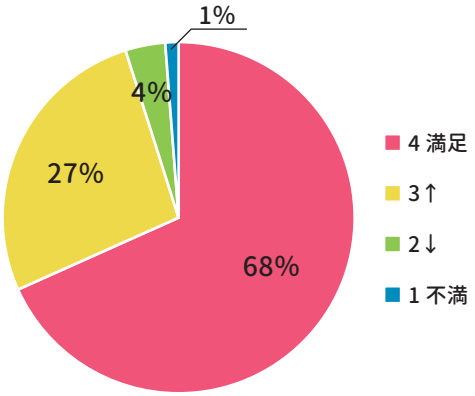
Q．ブース展示について感想をご記入ください。



ブース展示の満足度（回答数 94）

【感想（一部抜粋）】
・たくさんの人と話せた。
・バラエティ豊かで、でも環境を守りたいという思いはみなさん共通で、
　自分もそういう強い思いを持って行きたいと思った。
・学生の皆さんの活動が印象的でした。
・自分のブースがいそがしくて、他をあまり見れていない。
・あっという間の展示時間でした。各ブースが狭いくらい人がひしめき
　合っていたし、親切丁寧に説明してくださったので、とても分かりやすかった。
・難しいとは思いますが、ブース数が多いのでもっと時間があればいいと思います。
・分かりやすく掲示されていたり、実物を示しながらの説明が良かった。
　身近で小さなできることから始めていきたい。
・内容はとても満足だが、時間が長いと感じた。
・ごちゃついているイメージ、何のブースかもっと大きく表示してほしい。
・環境というテーマでも、切り口が違い、すごく興味深かったです。
・もう少し詳しい訴求が欲しかった。限られたスペースでは仕方ないのかもしれないが…。
・ブース展示の場に担当がいない所がかなりあって残念だった。

Q. 分科会について感想をご記入ください。



分科会の満足度（回答数 82）

【感想（一部抜粋）】

◆ 分科会 No.1 【第4の革命 ～エネルギーをみんなに、そしてクリーンに～】
・福島の現状を知れたこと、今岡山で活躍されている人がいるという事を
　知れたこと。これから自分自身がどう取組んでいけばよいか改めて考え
　るチャンスになったこと。ありがたい時間でした。
・原発ないしエネルギーはそんなに限りなくいるものなのか “足るを知る”
　“自然の中で生かされている” 生き方を目指そう！

◆ 分科会 No.2 【森に学び、森から考える未来の暮らし】
・限られた時間の中で、体験活動も交流も十分にできました。
・真庭高校の今後が楽しみです。ありがとう。

◆ 分科会 No.3 【環境問題の謎を解く！～中央アジアで何が起こったか？～】
・眠くならなかった。とても面白かった。この分科会で良かったと思えた。
・WS のやり方がとても良かったです。勉強になりました。

◆ 分科会 No.4 【『紙はゴミじゃない！』を日本の合言葉に！】
・紙をリサイクルして再利用していけばエコにもつながると思っていましたが、その紙にごみが入っていたことで
　再利用するのに時間がかかったり様々な理由で紙を分別することができなかったこと。
　紙を集めることもとても大変であることが理解できました。紙はなるべく分別をしっかりしていこうと思いました。
・職場で出来る古紙回収を考えたい。

◆ 分科会 No.5 【『瀬戸大橋』を環境と住民の取組みから振り返る】
・瀬戸大橋を環境の視点からとらえるという意識がなかったが、あらためて、30 年前に感じたことを思い出し、住民の立場からとらえると、大変なことだったろうなと思った。よい機会を与えていただいたと思いました。
・他の人の意見、考えを聞けたことが勉強になった。

◆ 分科会 No.6 【VAAM！スズメバチから考える環境問題と外来種対策が今､アツい！】
・外来生物、環境問題についてスズメバチなどの昆虫の観点から考えられたのはとても良かった。
・日頃出前講座で子どもたちに伝えていることと重なる所も多く、そこにプラスできる内容を頂けました。

◆ 分科会 No.7 【「すてる責任」を考える ～産業廃棄物リサイクルの現場から～】
・取組むことが難しいことがあった。内容はよかったのでもう少し話し合う時間が欲しかった。
・答えのない大きな問いもあったが、知らなかった世界を知れてよかった。

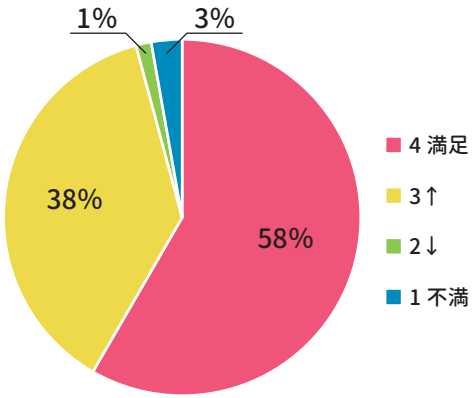
◆ 分科会 No.8 【「にじいろシャワー」な未来を考えよう！】
・虹色シャワーというテーマから価値観や教育についてなど語れたので楽しかった。
・社会づくりという大きなテーマに対して、当初出るとは思っていなかった話題の広がりがあってよかった。

◆ 分科会 No.9 【食品ロスはなぜ発生するのか ～リアルな現場から考えてみよう～】
・新たな発見がありました。「もったいない」いい言葉だと思います。
・DVD 視聴とふだんなかなかお話を聞く機会の少ない企業の方の話を聞くことができて良かった。

◆ 分科会 No.10 【チリメンモンスターから学ぼう！ 里海・里山＆SDGs】
・楽しみながら学ぶことの大切さを改めて感じました。分かりやすく教えてくださり感謝しております。
・楽しい作業で、幅広い年代が興味を持てる。すばらしいきっかけ作りだと思いました。実践したい。

◆ 分科会 No.11 【ドイツ生まれの気候変動教育プログラム「ミステリー」体験会】
・気象をテーマにした学習講座がまだなかったので、参考になりました。
・新しい「ミステリー」というプログラムを知ることができて良かった。岡山版の実現させてほしい。

Q．全体会について感想をご記入ください。

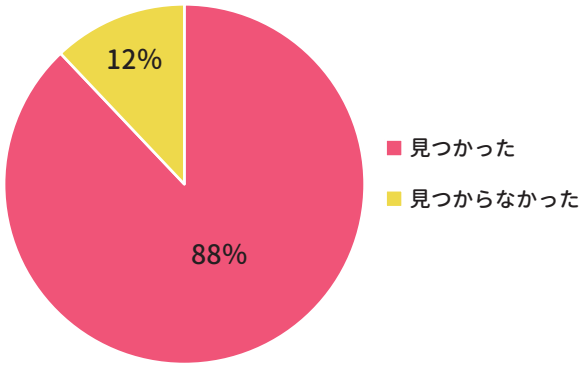


全体会の満足度（回答数 72）

【感想（一部抜粋）】
・思ったことや学んだことがたくさんありすぎて、2 分ではおさまりきらなかった。他の分科会の内容も聞けたのがよかった。
・学生、学校関係が増えてきた。良いですね。
・初めて会う人としっかりと会話が出来ました。
・参加型で、いろいろ考える機会を頂きよかった。
・4 人での分かち合いはよかった。
もう少しいろいろな意見も聞きたかった。時間が少したりなかった。
・SDGs について考える機会となりました。
・ちょっと詰め込みすぎであまりいいコミュニケーションはできなかった。
・1 時間という短い時間に、色んなものを詰め込んで、見事でした。シェアは大事と思いました。
・人とのつながり、新しい視点で共有しあえた時間だったので実りあるよりよい時間になりました。
・いつもよい時間をありがとうございます。出会い・再会・繋がり・気づき・発見 etc。
・時間配分がうまくて話し合いがスムーズにできて良かった。
・ESD と SDGs の違いが分かった。一般市民にどうやって伝えていくのか課題となる。

Q．本ミーティングで、新しいつながり、知識、スキルなどが見つかり、あなたの次のアクションについて、手ごたえやヒントが見つかりましたか？見つかった場合、よろしければ、その内容を教えてください。

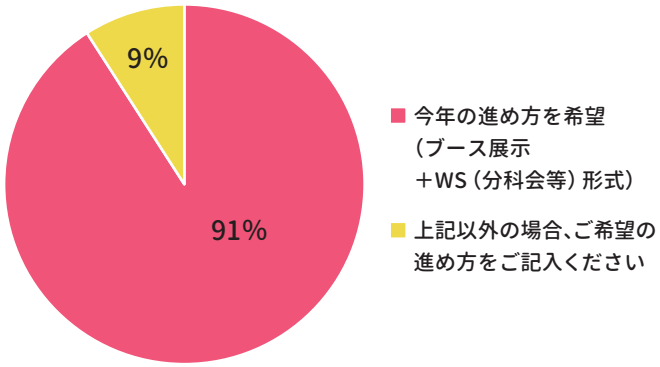
【見つかった手ごたえやヒント（一部抜粋）】
・産業廃棄物に関する教育についてヒントになった。
・他団体の様々な活動に参加してみたいと思いました。
・物の見方が大きく違う方がおられたのでもっと視野を広げたいなと思いました。
・企業の方とのつながり。
・人脈が広がった。
・若い世代との交流や意見交換。
・高校生と企業（地元）のコラボ。
・多様性をまずは知ること。
・教員を定年退職になったら、社会に向けて環境教育運動をやってみたいなと思えました。
・とよダルマガエル（西大寺公民館）の活動、身近な生物（希少）を知り、大切にしていこうとする活動の取組みが学校教育（科学クラブ教科）などで使えるかもしれないと思った。
・Think globaly － Act localy － Being personally　自分の住まい方、生き方、価値観を考え直す。



あなたの次のアクションについて、手ごたえやヒントが見つかったか（回答数 83）

Q．次回開催時の進め方について、どの進め方を希望されますか？

【今年の進め方以外の場合、ご希望の進め方（一部抜粋）】
・全体会・分科会を先に行い、後に展示を学ぶと、内容が深まりそうです。
（今後も、大雨・台風災害が増えると、「防災」も大きく取組まざるをえません。）
・時間配分は、少しずつブース長めがありがたいです。昼の間も見て回れて昼明けに質問できるなど。
・分科会 ×2 実施すると、より深い学びとなるのでは？（午前・午後各 1 回）
・ブース展示の時間が長すぎた気がする。
・歌などが途中にあっても良かったかも？（真面目一方ではなく、何かエンタメ的環境アトラクション的な出し物など）5 ～ 10 分で十分。
・ワークショップ 2 回程できませんか？
・参加者が少ないよう思う。平日でなくて土日開催ではだめなのか。
・講演会の方が参加しやすい。午前中で帰った人がいる。
・ワークショップを 2 つ 3 つ体験したい　1 ブース 20 分～ 30 分。今年 6 月に清里で体験（午前 2 つ、午後 2 つで 4 つ体験）。
・午前で終了。



次回、どのような進め方を希望されるか（回答数 77）

Q．本ミーティングをよりよくするために、ご意見やご要望など、どんな細かいことでもお聞かせください。

【一部抜粋】

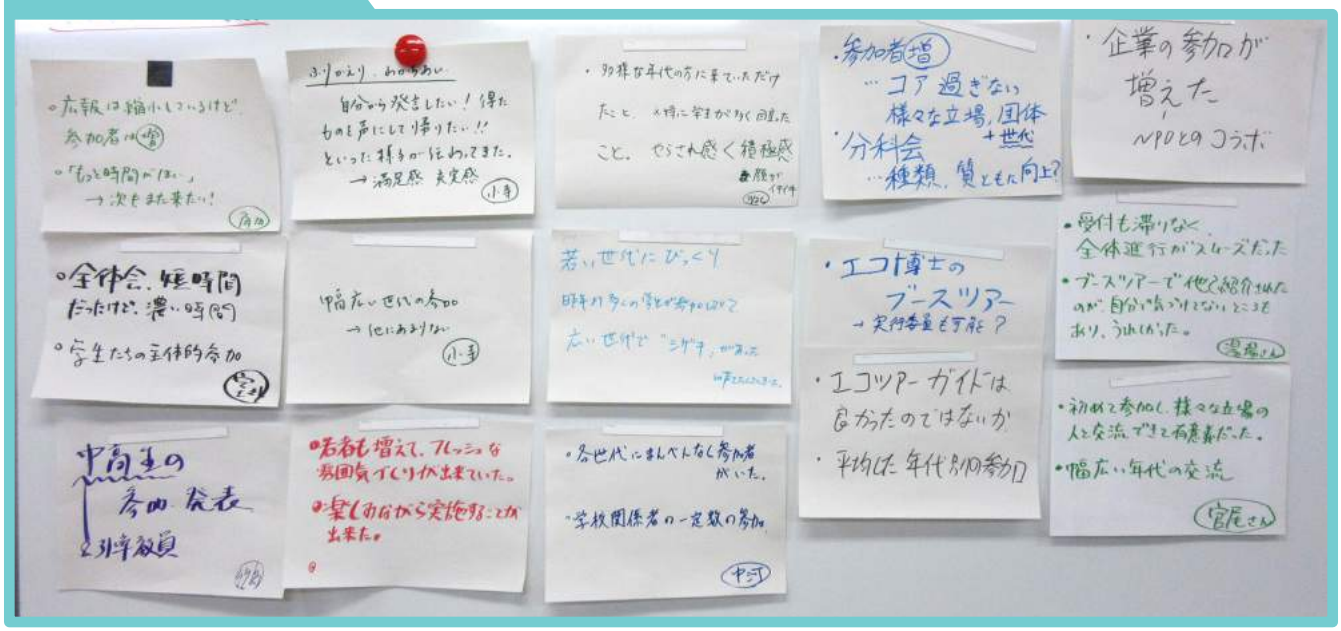
・今回のチラシを娘の中学の先生たちに…と思ってもらって、帰って娘を通して持って行かせたら、まちがって生徒に配られてしまいました…が、今回の旭東中の生徒さんの発表を聞いていると、中高生に配るのもあり！！と思いました。印刷部数を増やして、学生に配りましょう！！
・色んな年齢層の方とつながり学びあえて、有意義な時間になりました。ありがとうございました。皆様もお疲れさまでした。
・全体会の時にグループとグループが近くて、声が聞こえなかったです。すごく、良い時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
・もっと展示がいっぱい見たかった。
・本日得た知識を生徒や同僚の先生方にも伝えていけたらいいナと思います。本日は本当にありがとうございました。
・本日は非常に良い時間になりました。ありがとうございました。学ぶことの多い、たくさんの人とのつながりを感じさせるミーティングでした。
・全体会は必要なのか？
・もっとマスコミなどで岡山環境ミーティングの PR があれば、もっと集客に役立つと思います。パンフレットだけではなかなか伝わらない部分もあるので本会のご盛会を心よりお祈りいたします。
・今のままでも十分よかったですが、もう少しいろんな方と交流してみたいと思いました。
・県北でも開催してほしい。
・学生を増やしたい。
・初めて参加したのですが、最初に初心者向きの簡単な説明があってもよいのではないでしょうか？みんな分かりきっていることとして、説明されているような気がしました。
・ブース展示の見学者をもっと増やす方策を考えてはどうでしょうか。展示者同士の交流にとどまっている感じでもったいないです。
・ブース展示に入る前にほんの少しの時間でもブース展示団体の「一言紹介、PR」出来る時間があってもいいかなと思いました。
・分科会、もっとディスカッションの時間を多くとってもいいかも。
・クールチョイスの模範的な実践発表のようなこと。
・ブース展示の時間はもう少し短くてもいいのでは。

まとめ

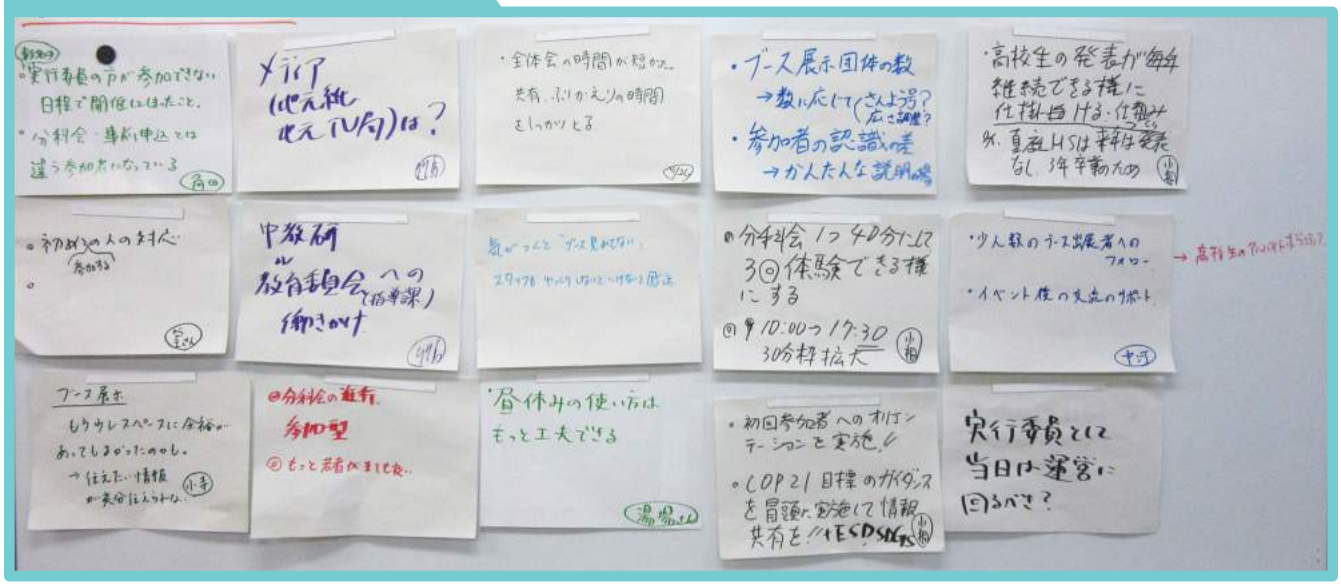
・今年のミーティングは、平成 30 年 7 月岡山豪雨災害において被災された学校等が欠席されたものの、過去最高の参加者数であった。
・今年は、参加した一人ひとりが成果（つながり、知識、スキルなど人それぞれ）を得て、次のアクションを見つけていることをゴール設定して取組んだ。ブース展示、分科会、全体会、あなたの次のアクションについて手ごたえやヒントが見つかったかのアンケート結果は、非常に高く、参加者にとって有意義な交流の時間と場を提供できたこと、参加者同士の語り合い、学び合いができたことから高い満足度につながったと思われる。
・若い世代（中学生から大学生）の積極的な参加が刺激となり、世代間交流も生まれミーティング全体が活性化したように思われる。
・後日、おかやま環境教育ミーティング実行委員会でふりかえりを行った。

【実行委員会でのふりかえり】

イイネ！良かった点



こうするともっとよかった点



開催までのスケジュール＆実施プロセス

■実行委員会等開催スケジュール

4 月 18 日（水）17：10 ～ 18：50
第 1 回実行委員会
協議：開催日の決定、委員長・副委員長の選出、開催目的、
ゴールなど全体構成、分科会について
報告：開催までの大まかなスケジュール

4 月 25 日（水）　関係者向け（ブース出展者等）開催案内について広報・参加者募集開始

5 月 30 日（水）17：15 ～ 18：20
第 2 回実行委員会
協議：チラシ、分科会のテーマ、内容について
報告：ブース展示申込状況

6 月 22 日（金）　一般向け開催案内について広報・参加者募集開始

7 月 25 日（水）17：00 ～ 18：00
第 3 回実行委員会
協議：当日の詳細スケジュール、当日の担当割振、分科会の記録について
報告：申込状況

8 月　9 日（木）10：00 ～ 17：15
第 6 回おかやま環境教育ミーティングの開催

9 月 12 日（水）17：00 ～ 19：00
第 4 回実行委員会（ミーティングのふりかえり、次回の開催日程）

■実行委員会メンバー

（実行委員）

環境団体	2 名	
NPO	2 名	
民間企業	1 名	
公益財団	1 名	
行政	1 名	
学校関係	7 名	（小学校教員 1 名、中学校教員 2 名、高校教員 2 名、教育庁・教育委員会 2 名）
合計	14 名	

（岡山県担当者及び事務局）

県担当者	1 名	（岡山県 新エネルギー・温暖化対策室 1 名）
事務局	4 名	（環境学習センター「アスエコ」4 名）

環境教育の輪はますます広がります！
to be continued...